

初めてのトゥクトゥクに笑顔がこぼれる (大垣共立銀行の服部さん提供)



「トゥクトゥク」に笑顔を乗せて、 参道を駆け抜ける

奈良・京都・大阪・兵庫・和歌山・滋賀・岐阜の二府五県にまたがる「西国三十三所」は、奈良時代に長谷寺の徳道上人が、病で生死を彷徨った際に閻魔大王に会い、世の人々の救済のため、三十三の観音霊場を開くよう命じられたことが起源とされています。この三十三番目の札所が、岐阜県にある「谷汲山 華厳寺」。地元の方からは「谷汲さん」と呼ばれ、親しまれています。

その華厳寺参道で、観光客や参拝客のために「トゥクトゥク(オートリキシャ)」を無料で運行しているのは、元教諭の矢野宏典さん。

トゥクトゥクはタイでの呼称で、タクシー代わりに使われている三輪自動車のこと。バイクが趣味だという矢野さんはある日、ツーリング先で若いカップルが乗ってきたトゥクトゥクを見かけ、独特のレトロな車体に魅了されました。いつか自分も購入したいと調べていたところ、兵庫県の販売店を見つけ、退職後、インドやパキスタンなどで「オートリキシャ」と呼ばれる小型の三輪自動車を購入。車体は、かつて岐阜市内を走っていた路面電車(通称「丸

窓電車)と同じ配色に塗装してもらいました。

せっかくなら、「たくさんの方にに乗ってもらいたい」と、祖父の出身地・谷汲にあり、自分もよく訪れていた華厳寺の参道で運行することを思いつき、地元

の方々に相談すると、お寺の住職を始め商店街の皆さんも「おもしろそう」と大賛成。今では、地元のイベントなどにもひっぱりだことなりました。

「趣味の延長です」と語る矢野さんですが、1日約100人もの人を乗車させるということですから、かなりの体力勝負。それでも、「日本でトゥクトゥクに乗れると思わなかった」「遊園地に来たみたい」と喜んでもらえるのが、何より嬉しいそうです。

5年にわたる活動で、トゥクトゥクの走行距離は4万キロを超えました。これからたくさんの笑顔を乗せ、参道を走っていきます。



矢野さんには、岐阜県本部(事務局：大垣共立銀行)より「小さな親切」実行章を贈呈